

2016年12月4日(日)朝10:10～

待降節第2、讃美練習等

12月第1待降節第2共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：主の郷里伝道

聖書：マタイ 13章53～58節

＜口語訳＞

新約聖書22頁

マタイ 13章53～58節

＜新共同訳＞

新約聖書27頁

マタイ 13章53～58節

＜新改訳第3版＞

新約聖書27頁

マタイ 13章53～58節＜塚本訳＞

新約聖書110頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒今日の聖書箇所は、教会暦の「**待降節第2主日**」で、牧会手帳に基づいています。

⇒先週の**マタイ24:36～44**は、「**神信仰の目覚め**」を**主**が、弟子たちに命じている箇所です。

⇒本日の**マタイ13:53～58**は、「**神の御子イエス**」が、郷里では受け入れられなかったことを記録している箇所です。

⇒「**イエスはこれらの譬を語り終えると**」(53)と、書き出されていて、**13章1節の種蒔きの譬**から始まる出来事の後、故郷伝道を試み、**譬の通りのこと**が行われたことを語っています。

本論；

◇本日、**マタイ書13章53～58節**から**主の使信に思い・心をとめます。**

◆**マタイ13章53～58節**；使徒**マタイ**は、**主の郷里伝道の結果**をと通して、**主の御心**を示します。

◇**53～58節**；塚本訳◆**郷里における伝道**

「**53 イエスはこれらの譬を終えると、そこを去り、**

54 郷里(ナザレ)に行つてその礼拝堂で教えられた。すると人々が驚いて言った、「この人はどこからこの知恵と、奇蹟とを覚えてきたのだらう。

55 これはあの大工の息子ではないか。母はマリヤで、兄弟はヤコブとヨセフとシモンとユダではないか。

56 女兄弟たちは、みんなわたし達の所に住んでいるではないか。するとこの人は、こんなことを皆どこから覚えてきたのだらう。」

57 こうして人々はイエスにつまずいた。しかしイエスは彼らに言われた、「預言者が

尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである。」

58 彼らの不信仰のゆえに、そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。）」と、使徒マタイは語っています。

◇ 53～57節a；イエスは「郷里(ナザレ)に行ってその礼拝堂で教えられた」、「人々が驚いて言った」、「これはあの大工の息子ではないか」、「この人はどこからこの知恵と、奇蹟とを覚えてきたのだろう」、「こんなことを皆どこから覚えてきたのだろう」と、「人々はイエスにつまずいた」のです。

⇒イエス様の故郷の人々、特に家族の人々は、私たちと違って、直接、イエス様を見、イエス様の語られることばを聴く機会が与えられたにもかかわらず、「神のことばを語り、神のわざ」を行っておられることを理解できず、イエス様を会堂の管理指導者のラビ(教師)のひとりのように理解しました。

⇒「人々はイエスにつまずいた」のは、「神の御子イエス様」を心の目、霊の目で見ることができなかつたからです。

⇒私たちは、肉体の目では、**神の御子イエス様**を見たことはありませんが、「**見ないで信じる者は幸いである**」と、**主イエス様ご自身**が、その弟子トマスに語って下さったように、**心の目、霊の目**で、**神の御子**を見ることができることを「**神の恵み**」と、喜びたいと願います。

◇**57節b～58節**；「**イエスは彼ら(譬弟子たち)に言われた**」、「**預言者が尊敬されないのは、その郷里と家族のところだけである**」、「**彼らの不信仰のゆえに、そこではあまり奇蹟を行われなかった。(出来なかったのである。)**」と、「**イエス様の郷里の人々とイエスの家族**」の「**不信仰のゆえに**」**神のことばとわざをイエス様は、行うことができなかったのです。**

⇒**神の御子の霊的なからだ、機能である教会**が、最も、**回避しなければならない事柄**です。

⇒**家族、夫婦、親子の間で、心と心の会話**ができなくなることは、恐ろしいことで、**心の断絶と表現されてきたものです。**

⇒併し、後に、**ヤコブは、エルサレム教会の議長**となり、**ユダとともに、神の福音書簡を認める神の働き人**に幸いにも、**変えられました。**

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒今日の聖書箇所は、教会暦の「**待降節第2主日**」で、牧会手帳に基づいています。

⇒先週の**マタイ24:36～44**は、「**神信仰の目覚め**」を**主**が、弟子たちに命じている箇所です。

⇒本日の**マタイ13:53～58**は、「**神の御子イエス**」が、郷里では受け入れられなかったことを記録している箇所です。

⇒ある意味では、**神の御子イエス様の福音**に**相応しくない記録**です。

⇒併し、「**信仰の人々**」には、**福音**は届きます。

⇒神の御子イエス様の少ないみことばの語りとわざは、旧約聖書伝道者の書11章1節の「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」のみことばのように、イエス様の故郷の人々やイエス様の家族には、「水の上のパン」のように空しいものであったでしょうが、「ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう」と語られたことばは、実現しました。

⇒OA師も、「自然の美しさもそうですが、人の心の暖かさに触れて嬉しく思うこともあります。もちろん、深い心の底まで探れば、肉たる者の悲しさ、罪の醜さが死相となって現れているのですけれど、その醜いものが同時に、悲しいほどの美しさを湛えています。しかし、それを感じる大人の心と余裕を持っていない時は、感動は起こらないのです。感動し得るための準備、感動の受け皿が必要なのです」と、「感動の受け皿」こそ、「神からの知恵と力を受けた霊の目、信仰の目」なのです。

⇒庄原教会は、故郷伝道の最前線にいます。